

ハイマダラノメイガ情報第1号（キャベツ、ハクサイ）

令和2年10月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

発生に好適な気象が続きます。ほ場での発生状況に注意しましょう！

1 発生状況

- (1) 9月下旬の巡回調査において、**キャベツほ場における被害株率は0.70%**(平年1.06%、前年0.58%)で、**過去10年で3番目に高く**、寄生株率は0.25%(平年0.21%、前年0.11%)で、過去10年で4番目に高い状況です。
- (2) 9月下旬の巡回調査において、**ハクサイほ場における被害株率は3.33%**(平年1.36%、前年0.78%)で、**寄生株率は1.00%**(平年0.43%、前年0.33%)で、**ともに過去10年で2番目に高い**状況です。

2 防除対策

- (1) ハイマダラノメイガは夏期、秋期が高温・小雨の年に多発する傾向があります。本年は8月以降平年より気温が高く、降水量も8月と9月中下旬は平年より少なく推移し、本種の発生に好適な状況でした。名古屋地方気象台10月1日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと見込まれており、**本種の発生に好適な状況が続くため、ほ場での発生状況に注意しましょう。**
- (2) ハイマダラノメイガの幼虫(図1)は、主に成長点部を食害します。**成長点部を食害されると、正常な結球が望めなくなるため、早期発見、早期防除に努めましょう。**
- (3) は種時や育苗期後半、定植時に粒剤や灌注処理剤で防除しましょう。その後は散布剤で防除しましょう。薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう(表1)。
- (4) 育苗時は、目合い2×4mm以下の防虫ネットなどで覆い、成虫(図2)の侵入を防ぎましょう。



図1 ハイマダラノメイガ幼虫



図2 ハイマダラノメイガ成虫

表1 ハイマダラノメイガの主な防除薬剤

	農薬通称	使用時期	使用 方法	系統	IRAC コード
キャベツ	エルサン乳剤	収穫14日前まで	散布	有機リン	1B
	プレオフロアブル	収穫7日前まで	散布	プロペニルオキシフェニル	UN*
	アフーム乳剤	収穫前日まで	散布	マクロライド	6
はくさい	エルサン乳剤	収穫21日前まで	散布	有機リン	1B
キャベツ はくさい	プレバソンフロアブル5	育苗期後半～定植当日	灌注	ジアミド	28
	ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	灌注	ジアミド	28
	グレースシア乳剤	収穫7日前まで	散布	イソオキサズリン	30
	トルネードエースDF	収穫7日前まで	散布	オキサダイアジン	22A
	アニキ乳剤	収穫3日前まで	散布	マクロライド	6
	ディアナSC	収穫前日まで	散布	スピノシン	5
	プレバソンフロアブル5	収穫前日まで	散布	ジアミド	28

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。